

令和元年度 県外視察研修報告

岡谷市立上の原小学校 宮澤佑梨

研修のテーマ

「主体的・対話的で深い学び」を通して、「知的にたくましい子」を育てる

- 1 視察期日 令和元年 6 月 15 日(土)
- 2 視察場所 筑波大学附属小学校
- 3 研修報告

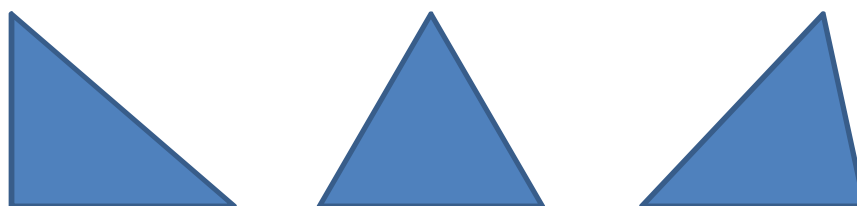
(1) 研修の概要

筑波大学附属小学校では、平成 27 年 6 月より、研究テーマを「『きめる』学び」と題し、「主体的・対話的で深い学び」の具体的な姿を追究してきた。今回の研修では、その 4 年間の研究の集大成となる公開授業や研究発表会に参加し、「知的にたくましい子」を育てる授業づくりの視点を学んだ。

(2) 研修から感じたこと

筑波大学附属小学校の定義する「知的にたくましい子」とは、「チャレンジする意欲、冒険心が旺盛で、柔軟でしなやかな発想ができ、自分の力で粘り強く納得できる答えを見つけようとする子」である。授業が子どもたちにとって、「主体的・対話的で深い学び」となるために、筑波大学附属小学校では、毎授業子どもたちが自分で何かを「きめる」場面を設けていた。「きめる」内容は教科の特性によって様々だが、例えば、5 年算数の面積の授業では、次のような「きめる」学びが展開された。

導入場面、初めて三角形の面積を求める子どもたちに、教師が直角三角形、正三角形、鋭角三角形の 3 つを提示し、「どの三角形なら面積を求められそう？」と尋ねた。子どもたちは、それぞれに自分が決めた三角形の面積を求めようと試行錯誤し、積極的に考えを発表し合っていた。



「正三角形なら、3 辺の長さが同じだから、1 辺×1 辺×1 辺でどうかな？」

「正方形が 1 辺×1 辺だったもんね。」

「でもなんか、大きくなりすぎじゃない？」

子どもたちは、与えられた課題を解くのではなく、自分で決めた三角形の面積を求めるという展開に「何とかして答えを出したい」と感じ、これまでに習った知識を活用しながら対話を重ねた。そして、ある子の「方眼を使ったら出来そう！」の一言をきっかけに、直角三角形が長方形の半分の面積であることに気づき、「縦×横÷2」と自分たちなりの言葉で直角三角形の公式を導き出した。

授業の中で、はじめは正三角形や鋭角三角形に決めた児童も、友達の意見を聞くうちに、直角

三角形の面積の求めやすさに気づき、考えの決め直しを行っていた。子どもたちの中には、はじめに自分の決めたことに不安や疑問を抱え、思い悩みながら授業に臨んでいる子もいた。しかし、誤答を受け入れ、子どもの素直な発想や困っていることに教師や周りの子たちが関わり、よりよい考え方を見つけようと意見を交わし合う姿は、まさに深い学びであると感じた。

授業の中に子どもたちが「きめる」場面をつくるという視点は、授業の主導権を子どもたちに委ねてみることと同義である。子どもたちは、自分たちで決めたり、選んだりした問題となれば「何とか解きたい!」と意欲的になる。「主体的・対話的で深い学び」により課題解決能力を育成することが求められる今、与えられた課題を教えられた方法で解けるようになるだけでは、不十分である。自分たちで課題を決め、失敗を恐れず解決の方法を見つけようと粘り強く考え抜く「知的にたくましい子」こそ、これからの社会を生き抜くために育成すべき子どもたちの姿であると感じた。

(3) 研修を通して私のこれからの課題

教師2年目の私は未熟さゆえ、授業の教材研究は指導書の朱書きを読むところから始まる。そして、朱書きを読むと、どの教科も限られた時数の中でしっかりと身につけさせたい内容がたくさん詰まっている。私は日々、「何とかみんなが分かるようにしたい。そのためにも教科書の内容を順序よく、分かりやすく教えなくては。」と授業を行ってきた。しかし、今回のような授業スタイルを知って、もっと子どもたちに主体の、自分たちで学んでいく楽しさを実感できるような授業に変えていきたいと感じた。子どもをつまづく姿を見つけると、つい「そうじゃないよ、こうやるんだよ。」と私が説明しすぎてしまう。しかし、それは子どもたちの必然的な対話の機会を奪っている。子どもをつまづきは対話のチャンスである。今後は、解きたくなる問題提示の仕方を磨き、つまづくから対話を広げていくことで、「主体的・対話的で深い学び」のある授業を実現していきたいと思った。

また、子どもたちに決定権を委ねることも意欲を高める上で重要だと感じた。それは授業の場面に限らない。試しに給食の時、「 分で給食の用意を終わらせなさい。」ではなく、「何分あれば用意できるかな?」と問いかけてみた。「5分!」と元気よく答えた子どもたち。そんなに早く用意できたことはなかったが、自分たちで決めたのだから...とタイマーで計ってみると、5分後... 何と配膳を全て済ませ、全員が座ってにんまりこちらを見ていた。子どもたちの力は無限の可能性を秘めている。学校生活の小さな場面一つ一つにおいても、子どもたちの主体性を尊重していきたいと思う。